

20231025 第59回労働政策委員会

運輸労連は、25日WEBにて「第59回労働政策部会」を開催し、2024春闘方針や要求のあり方などを、第56回定期大会の発言や第53回運輸問題研究集会での討議を踏まえて議論しました。

委員長の選出では、丸山中央副執行委員長（全新潟運輸労働組合：中央執行委員長）が選出されました。

丸山委員長は、2024春闘に向けて、執行委員会で確認され、中央委員会まで時間がない中ですがしっかり議論していきたいと述べました。



本日の議題は、2023春闘・2023夏季一時金最終集約の報告。定期大会労働政策の取り組み課題の確認。運研集：第1分科会での発言。から、『2024春闘の取り組み』を議論しました。

春闘方針については、様々な立場からの発言があり、すべての意見を反映するのは難しいが、今後とことん議論をする。

【意見】

運輸労連の全国組合の数字の出し方は、北から南までの平均値なのか？

連合の300人以上の数字（24万6827円）を使うという根拠は？

中小企業の業種間格差のために連合の平均を入れる方法もある。が、格差是正が図れるのか？連合全体では28万以上になる。

連合内の交通運輸300人未満の523組合207,617円。産業内格差を埋めるためにも全国組合と平均をとってもいいのではないかな？

連合の数字を利用することによって平均した分母で算出基準を考える。

所定内労働時間だけではない年齢や全体の賃金も問題点が多い。

ブロック別でなくても、都道府県連別に各所定内労働賃金に連合のいう%（率）の統一でもよいのでは？

上記は一部です。多くの意見が上がりました。

次回の委員会は11月30日、ここが最後になりそうである。委員からは、2回の委員会で決められる問題ではない。30分でも1時間でも時間をとって議論するべきだとの意見が上がりました。

以上